

平成22年3月3日

会 議 録 審査内容

◇会 議 録

- 1 日 時 平成22年3月3日
 開会 15時30分 閉会 15時50分
- 2 場 所 幕別町役場 5 階会議
- 3 出 席 者 5 名
 委員長 牧野茂敏
 副委員長 藤原 孟
 委 員 増田武夫 乾邦廣 助川順一
 議 長 古川 稔
- 4 職務のため出席した議会事務局職員
 局長 堂前 芳昭 課長 仲上雄治 係長 金田恭之
- 5 傍聴者 谷口和弥
- 6 審査事件 別 紙
- 7 審査結果 別 紙

委員長 牧野 茂敏

◇審 査 内 容

(15時30分 開会)

- 委員長（牧野茂敏） ただ今より総務文教常任委員会を開催いたします。本会議に付託された陳情の審査についてであります。順序ですと、一番め、陳情第1号から始めるわけですが陳情第3号から、入っていききたいと思います、よろしいでしょうか。
- （異議なしの声あり）
- 委員長（牧野茂敏） それでは、陳情第3号、核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の提出を求める陳情書、これについて、皆さんからのご意見をいただきたいと思います。ご意見ございませんか。増田委員。
- 委員（増田武夫） この陳情書の内容というのは、平和市長会議が様々な活動の中で主張している内容と、ほとんど同じ内容だと思うんですね。平和市長会議、広島市長、長崎市長が各自治体等にも呼びかけている、そういう内容となっていて、特に今年の5月にニューヨークで、国連でNPT再検討会議が5年ごとに開かれているのですが。そこでどういう話あいが行われるかが、核兵器廃絶にとって非常に重要なことでそれに向けて、平和市長会議では2020年までに核兵器をなくすという方向を順序だててすすめて欲しい、そのことをNPTの再検討会議で議決して欲しいという運動をしているわけなんです、そういうものを後押しするという意味で、是非陳情書を上げることがいいのではないかと、僕自身も考えます。以上です。
- 委員長（牧野茂敏） ほかにありませんか。意見はないようであります。それでは討論もございませんか。それでは、陳情第3号、核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の提出を求める陳情書については、採択とさせていただきますよろしいでしょうか。
- （はいの声、多数あり）
- 委員長（牧野茂敏） 皆さん賛成でございますので、採択とさせていただきます。続きまして、陳情第1号、「政治とカネ」の疑惑究明と企業・団体献金の禁止を求める意見書の提出を求める陳情書、これについてご意見をいただきたいと思います。ご意見ございませんか。増田委員。
- 委員（増田武夫） 今、国会が開かれているわけですが、その中でも政治とカネの問題というのは、どの議論を聞いていても必ず出てくる問題なんです、いろんな新聞だとかテレビだとかの世論調査にでてくるように、やはり鳩山さんとか小沢さんはもっと説明をすべきではないか、というのが8割とか、説明が足りないのではないかとというのが、そういうのが7割、8割になっていると思うんですね。やっぱり、政治の信頼を回復していくためには、そうした疑惑もきちっと解明されて、そして政治資金規正法なんかでも定めていることに、やはり透明性を確保して信頼を回復していくということが、政治のうえでは非常に重要なことだと思うんですね。やっぱり、国民がそういうことを思っている以上、そういう方向で政治が動いていって欲しいと、そういうことで、意見書を上げるということが、正しいことではないかと思うんですけれど。一つは、自らが疑惑に答える説明をまずするということと、国会がその責任を果たして疑惑の解明、政治的道義的責任の、国会がちゃんと責任を果たすという、そのことが、まず大事ではないかと思うんですね。こういう問題は、過去の政治の中では繰り返し出てきているんですね。企業献金ばかりでなく、今回の北教組の資金提供の問題でも、これ団体献金になるんですけれども、これもああいう形で今回出てきてしまったという問題もあるので、やはり企業団体献金は、禁止する、鳩山さんも禁止する方向で協議会を設けようなんてことをね、つい最近も言っている、そういう方向に段々いくんでないかと思うんですが、

そういうものを後押しするという意味でもね、必要なことでないかと思うんですよね。四番目も、引っかかる人もおられるかと思うんですが、小沢さんの政治資金疑惑の中の一つの問題はあの人いくつも政党を解散して今の状態にあるんですが、解散する時に何億とか残っているのが、政党助成金のお金なんですよ。それが、すべてどこに使われていったか、分からない形で受け継がれていってるんですよ。そういう意味でも、政党交付金というのもカネの疑惑にまつわる大きな問題にもなっていますし、思想信条の自由に反する、国民一人250円ずつ政治に金を出しているという格好なんです。その出しているものが、自分の支持している政党でないところにいくということに、思想信条の自由に反すると言われてはいるんですけど、そういうこともあって、そういうものもなくしてすっきりとした政治にするべきではないかと、僕自身も思います。以上です。

- 委員長（牧野茂敏） ほかにありませんか。乾委員。
- 委員（乾邦廣） 増田委員が発言したことに、だいたい私も賛成させていただきます。クリーンなイメージで政権が交代がなされましたが、政権をとった直後に政治とカネにまつわる、それも総裁、総理、幹事長、このような政治とカネは国民の期待を大変裏切ったと思っております。まだ、ほかの議員さんも何名かはそういう疑惑がもたれておりますので。私も、この陳情項目1、2、3については賛成をさせていただきます。4番の政党交付金制度を廃止することには、ちょっと私は疑問をもっております。やはり、この鳩山さん、小沢さんは金をもっているから政党助成金はいらんかと思えますけども、やはり企業献金とかそういうのを、やめろという名目で政党助成金が発足されたとは私は理解しておりますので、この制度をなくすとそれぞれの政治活動が、政党としてもなかなかゆるくないんでないかと、思いますのでこら辺、私、廃止することには疑問を感じます。
- 委員長（牧野茂敏） ほかの方、どうでしょうか。助川委員。
- 委員（助川順一） 私も、3番までは、そのとおりだと思うんですけどね。ただ、乾議員が先ほど発言されましたように、企業団体献金をやめるかわりに政党助成金をはじめた。そのとおりいかないで、企業団体献金も残ってしまっていますけれども、あとその議席に応じてという配分も、選挙制度の問題もありますから、その投票構造と一致しないという部分は確かにあると思うんですけども。アメリカみたいに個人献金とか、そういう政治風土とか、そういう民主主義とか、そういう選挙制度にきちっとそういったものが発展、ある程度そこにいくまでは、こういった政党助成金、いろんな問題はありますけども、しばらくは残らざるを得ないのではないかと、そんな風に今のところは考えています。以上。
- 委員長（牧野茂敏） 藤原委員。
- 委員（藤原孟） 私としましては、まず3番目の「政治とカネ」の企業献金、特に文面にありますけれど、ゼネコンの闇献金が一部含まれているというような、こういう不確定な言葉が書かれておりますのでね、それで幕別の議会としてこのような言葉づけで、もし意見書を出すとなれば、それは少し考え方が違うのではないかという気がします。また、すべてこれ企業献金をもらっている議員全員が不正を働いているかといえば、そういうことではないと思います。一部のひとはいるかもしれませんが。そのところ、とらえないですべてを悪だ、悪だということで、うちの議会として意見書を出すということは、私は今のところ反対です。また、国会の中では総理大臣には、増田議員がいわれましたように、かなりいろんなことを検討しているということもありますので、その辺で少し様子を見ながら、ということもあっていいのか

なという気がします。委員長、いかがでしょうか。

- 委員長(牧野茂敏) ただ今、藤原委員の方から様子を見ながらという話なんです、今、ちょっと整理しますと、4番目のこの件についてもう少し増田委員の方からお話があれば。増田委員。
- 委員(増田武夫) いろいろ意見が分かれる点だという風に思うんですけど、政党交付金、政党助成金が始まった、作られたそもそものが、さっきも出ていたように、企業団体献金をなくすんだという、そういう名目で始まったんですよね。年に310億、320億ぐらいが、共産党はもらっていないんですが、各政党に分配されるという形で、もう10数年になるので、相当な額がこれに使われたわけなんですけれども。やはり本来の政党のあり方として、さっきも出ていましたけれど、アメリカなんかは個人献金中心にということで、企業だとか団体の、どうしても献金を受けるということになれば、利益誘導になる。そこで色々なロッキード事件から始まって金丸さんの金庫から金の延べ棒がでてきたとか、そういうことも含めて不正の温床になっているということで。そのことは大方の意見が一致するところだったからこそ、企業団体献金を禁止するための、政党助成金ということだったと思うんですよね。やっぱり、政党交付金制度というのは、国民の税金で政党が養われるという形になって、そういう形で進んでいくと、政党の墮落につながっていくんじゃないか、という議論があるくらいでね。やっぱり、政党は自分たちの、その国民からの浄財による献金だとか、党を支える人たちの資金で運営されていくのが、近代政党の条件だという風に言われているわけで。そうした点では、1、2、3ばかりでなくて、4番目も実現することが、日本の民主主義的な政治の成長にとって欠かせないでないかと、思うんですけどね。それは、いろんな意見があろうかと、思うんですが、そういうことで、そういう風に僕自身は考えています。
- 委員長(牧野茂敏) この際、少し時間を取っていただきたいと思いますので、暫時休憩させていただきます。
- (暫時休憩)
- 委員長(牧野茂敏) それでは再開をしたいと思います。陳情第1号については、継続審議とさせていただきますと思いますが、よろしいでしょうか。
- (はいの声あり)
- 委員長(牧野茂敏) それでは、継続審議とさせていただきます。日程については、いつがよろしいでしょうか。次回は3月11日、本会議終了後とさせていただきます。それでは、所管事務調査もありますけれど、本日はこれをもって終了させていただきますと思います。
- (15時50分終了)